

サレジオ同窓会連合 第12回東アジア・オセアニア地域大会

2日目 Br. Nam、高山 貴さんの話にひきつづき質疑応答

Br. Nam の応答 訳

- ナムさんへの質問を受け付けています。ナムさん、元気ですか？

ありがとうございます、元気ですよ。朝早い時間ですが。(ローマから)

- 昨日も問われた質問、参加者から来ている質問を、私もしたいと思います。世界中に同窓会の顧問を務めるサレジオ会員がいますが、どのような顧問、サレジオ会員デレガートを夢見ていますか？

とても良い質問ですね、質問してくださりありがとうございます。私は自分の話の中で、「父の心」について皆さんと分かち合いました。同窓生の皆さんに、ドン・ボスコの心を持ってほしいとお願いしたのです。それならなおさらのこと、同窓生のためのデレガート、顧問には、若者のためにドン・ボスコの大きな心を持つべきだと言いたいです。なぜなら私たちはサレジオ会員であり、すべての若者を大切に、愛する使命を与えられているからです。同窓生であるかどうかにかかわらず、すべての若者を愛さなければなりません。そうであるなら、同窓生はなおさら愛さなければなりません。顧問にお願いしたいのは、ただそれだけです。

- ナムさん、ありがとうございます。高山さんがスクリーンに登場してくださっています。ありがとうございます。高山さんの体験談に私たちは深く感動しました。実際の体験であり、映画を作れるほどですね！ たくさんの質問があると思いますが、一つは、どのようにして困難に負けることなく乗り越えられたのですか？ 何がその力を与えたのですか？

〈高山さんの答え〉

.....

- ナムさんへの質問が来ています。ナムさんと高山さんのお二人ともベトナム出身ですね。一人は英語で話し、もう一人は日本語で話していますが。

ナムさん、私たちの地域には、生きていくために一つの国から別の国へと移住する多くの若者がいます、移住労働者です。サレジオ会員、特にサレジオ同窓生に言いたいことはありますか、どんな夢がありますか、私たちはどうしたら移住労働者に寄り添えるでしょうか。国境を越える、あるいはインドなどでは地域の堺を越える移住労働者に。

質問をありがとうございます。ところで、質問の初めに、私たちが二人ともベトナム

出身だと言ってくださいましたね。さらに驚くべきことに、カオ・ディン・クィさんのご家族の家は、私の家族の住む場所と近いんです。そう、私はサイゴン、ホーチミン市出身です。ホーチミンとビエンホアは 30 キロほどしか離れていません。ですから、おもしろい出会いですね。

もちろん、クィさんは私よりずっと先輩ですが、クィさんが国を出たころのとても困難だった時期を私も経験しています。戦争が終わって間もないころです。クィさんは日本にたどり着けたので幸いでした。私はベトナムにいて、国に残ったすべてのベトナム人と同じく、大変な苦労を経験しました。それは本当です。

人生というものは恵みの降り注ぐものです。クィさんはベトナムを後にし、日本に行かれ、恵みをもらいました。私自身も、別の形で、神様が本当に愛を示してくださる恵みをいただきました。ですからもちろん、私たちがどこにしようと、神は決して、決して私たちを見捨てません、神はいつも私たちを見守り、どこにいても、私たちが愛してくださいます。

そして移住労働者のこと、私たちの地域では、多くの人に移住する現象が見られます。サレジオ会の中で、サレジオ会管区間で、連携が行われています。ベトナム人サレジオ会員をベトナム人移住者のいる国に派遣しています。例えば、日本に一人のベトナム人サレジオ会修道士が派遣されています。日本に暮らしながら困難に直面する若者に寄り添うためです。サレジオ会はそのような対応をしています。

同窓生についてどうかとのことですが、カオ・ディン・クィさんの例を教えてくださいました。若者たちの中には移住している同窓生がたくさんいると思います。同窓生の間のつながりがあれば、私たちの地域の中で移住する同窓生と連絡が取れれば、移住先に着いたときに最初の支援を行うことが容易になります。昨日、同窓会の中のコミュニケーション、データベースについて話があがっていました。私たちは今、それを実現させるべきです。私たちの地域における同窓生のネットワークになるでしょう。

- ナムさん、ありがとうございます。バングラデシュからやはりナムさんに質問が来ています。日本でのベトナム難民の方たちの苦労について聞きましたが、ベトナムに残った皆さんの体験について分かち合ってもらえますか？ ナムさんの人生で、どのような大きな困難がありましたか？

そうですね、私は兄たちより少し恵まれていました。兄たちは、クィさんと同世代です。私の家族は大家族です。私たちは男 7 人、女 2 人の兄弟姉妹です。私は下から 2 番目です。戦争が終わった後、兄たちは皆、勉強を続けられず、家族を助けるために働かなければなりません。両親の仕事だけで生活できなくなったためです。私にとってのチャレンジは勉強を続けることでした。常に勉強をやめ、親を手伝いたいという思いにかられたからです。幸運なことに私には兄がたくさんいたので、兄たちが家族の面

倒を見てくれて、私が勉強を続けられるようにしてくれました。勉強をやめるか続けるか、その葛藤が一つの大きなチャレンジでした。幸いなことに、私たちの小教区ではカテキズムや青年の活動がとても活発で、ベトナム全体が大変だったその時期、私にとって前向きに進む助けになりました。私自身の召命は、そのような教会・小教区の活動に参加する中で生まれました。私にとっていちばん大変だったのはその時期でしたが、幸いなことに、教会のカテキスタの方が勉強を続けるようにと私を励ましてくれました。そして教会の良い環境のおかげで、私の召命は養われ、育まりました。

- ナムさん、ご自身の体験、ご家族のこと、召命のことを分かち合ってくれてありがとうございました。スクリーンに登場しているサレジオ家族のメンバーお二人に感謝します。質疑応答の時間が終わろうとしています、高山さんとナムさんにそれぞれ一言二言いただきたいと思います。「ドン・ボスコ」というと、何が思い浮かびますか？ 高山さん、お願いします。

〈高山さんの答え〉

- ありがとうございます。簡潔で、明快なメッセージでした。ナムさんにも同じ質問をします。

私にとって、ドン・ボスコと耳にするとき、今すぐに思い浮かんだのは、ドン・ボスコが若者の父、教師、友だということです。ありがとうございます。

- 皆さんが若者の父、教師、友でありますように！ お二人ともありがとうございました。アジア、オセアニアのサレジオ家族のメンバー、若者にインスピレーションを与えてくれる、このすばらしい家族的な分かち合いを感謝します。ありがとうございました。